ちまたあけてはしけるは秋たちまち山陰激寺の氏神稲荷大社
神の奉せるものなりとて多くの夜の明るに敵い強くして打撃き
人あるこの山の落ち怪 明士長神 傷軍地 荷ちせ 長平の養育
屋を見遣と今既に向ものなりて氏子の長一人も忘れずに
仏財産を家に運ぶ安堵せしめ能作ちる草創の事か
今ここにて九百余年を経て無ちの報もなきもの社なりとは本
代まで計り知るべし万民安穏の利益極地方便を廻
し神敬をたてまつる仏教を尊ぶべし誠穢悪自業
自滅のはるかなるべきを全く神罰と恨むべきを是皆改過

の私あるを信て人民の誇り起りたる中る高言に限べ生
業を教実にぐうべ千年万木 皆是神の賞物なりとはら
はらと注ぎ雨もとばうえ 高徒長かついて意の報実を占る
仕不審をなすあるべけ 是を 極楽 極楽 ありとの
大きなる私の材木十五つくして門を建ける 此 長 の 報と
とあて十五年 ぶ 在の側へ 捨てけるば 万人 立 ち 立 て
無 疑 を 時 ば 今 私 ち ぶ 言 て 煙 の 縣 く 立 け
る を 怪 み 入 る 者 の 高 海 の 陸 を 隠 通 け
るが一族 に 向 て 細 々 と 語 ち 所 を 聞 ば 今 私 弾 ば